

Key
Person



(株)オーケー電機 代表取締役

小金澤 洋明

小金澤社長は飲食業界で10年以上のキャリアを経て、制御盤製作を手掛ける家業に入った。幼少期から家業への反発心があったというが、家業に入るからには、しっかりと事業を支えていくと覚悟を決めたという。そうして一から現場経験を積んで技術力を磨くとともに、事業のターニングポイントでも優れた判断力を発揮して、家業を成長させてきた。代替わりは突然だったが、苦労を重ねながらも粘り強く取り組んできた社長は、事業において自身の軸を持つこと、そして挑戦することを大切に、これからも自分らしい経営を続けながら『オーケー電機』を守り立てていく。

「ぶれない軸を持ち、挑戦を続けながら、事業をさらに成長させていきたい」



ゲスト（タレント）
野村 将希

揺るがない軸を持ち常に挑戦を続けて 事業の未来を切り拓いていく

制御盤の設計や製造、盤改造を手掛ける『オーケー電機』。優れた技術力と豊富な知識を活かして制御盤に関する幅広い悩みに応えており、顧客は国内だけでなく海外にも広がっている。同社を牽引する二代目・小金澤社長は人を大切にしながら常に挑戦を続け、会社を堅調に成長させている。タレントの野村将希氏が同社を訪問し、インタビューを通じて社長の経営観に迫った。

異業種を経て強い覚悟を持って 家業へ入る

——『オーケー電機』さんは小金澤社長のお父様が創業されたと伺っています。

制御盤製造会社に勤めていた父が勤務先を退職し、30数年前に起業したのが当社の始まりです。昔はもっと小規模で家族経営だったため両親は常に忙しく、私も小学生のころから友達と遊ぶより家業を手伝われることが多かったんです。そうしたこともあって家業への反発心が強く、学業修了後は飲食の道に進みました。

——今とは全く違う分野ですね。飲食業界では何年ほどお勤めを？

大学時代のアルバイトも含めると、18

歳から28歳まで働いていました。その後、1年ほど父の会社で働いていた時に前職で知り合った先輩が「お店を立ち上げるから一緒にやろう」と誘ってくださり、そちらに移って一社員として働き始めたんです。ところが先輩のお店では経営不振を理由に半年以上給料を支払っていただけなかったんですよ。生活が苦しかったので、父に頭を下げて家業でアルバイトをさせてもらっていました。結果的に先輩のお店が2年と持たずに閉店してしまったことから、家業に戻ることに決めました。戻るからにはしっかりと家業に根差そうと覚悟しましたね。それが2010年のことです。

——社長が家業に入られることになって、お父様としてはきっと嬉しかったと

思いますよ。

改善すべき点は改善し 家業を飛躍させていく

——御社では制御盤の製造などを手掛けておられるそうですね。社長も家業ではまず現場からスタートされたのですか。

最初は雑用からでしたね。父は職人としては一流でしたが、優しく手取り足取り教えてくれる人ではないので、入社当初はとにかく見様見真似でした。そうして必死に技術を磨いていったんです。

——代替わりされたのは、いつだったのですか。

2020年7月です。父が病気で急逝したことを受けて、急遽代替わりすること

株式会社 オーケー電機

神奈川県横浜市金沢区福浦 2-3-2 URL：https://okdenki.jp

になりました。それまで私は現場が中心で、経営を専門的に学んだり、家業の経営に携わったりしたことはなかったので全て一から経験を積んできたんです。

——かなり大変だったでしょうね。

代替わりもそうですが、その直前の出来事が当社にとって大きなターニングポイントになったんです。当時、当社は横須賀でお世話になっている取引先様の工場を間借りさせていただいていました。そこへ今の取引先様から「急ぎで仕事を頼みたい」という依頼を頂いたんです。その案件を引き受ければ、新たに契約してくださるということで、父から私に相談があり、私は「難しくても引き受けよう」と言いました。

——なぜ引き受けよう？

当時のメインの取引先様とは創業時からのお付き合いで恩義がありますが、私が将来会社を継ぐことを見据えた時に、リスクヘッジのためにもメインの1社だけに頼る状態を脱却するべきだと思ったんです。それまで両親の背中を見てきたからこそ、「もし私が経営するならこうありたい」という明確なビジョンがありました。当時の決断が奏功し、今は社員も増え、需要の高い工業地帯である金沢

区に拠点を移すこともできました。

——結果として大きく飛躍できたんですね。代替わりも重なって苦労があった中、投げ出さない精神力が素晴らしいです。

確かに、事業を畳む選択肢もありましたが、今お世話になっている取引先様に対する恩義があります。仕事を依頼する側としては、取引先に次世代がいるのは安心に繋がります。私に期待して取引してくださったという面もあったでしょうから、それを裏切りたくないという思いがありました。

——義理堅いですね。社長の代になって、他に変えられたことはありますか。

父はお客様を大切にするために、自分の意見は控え、お客様のご要望を何でも聞くスタイルでしたが、私はお客様を大切にすることはもちろん、良いものを作りたいからこそ、言うべきことは伝え、お客様と意見を交わすスタイルを大事にしています。

——先代とのスタイルの違いで、お客様が離れることはありませんでしたか。

ありがたいことに、それはありませんでした。経営者として一番大切なのは「ぶれないこと」だと思うんです。ぶれてしまうとお客様も不安になってしまうの

で、これからも自分の軸を貫いていきたいですね。また、私が勤務時代に無給状態を経験したからこそ、当社の社員には努力をきちんと評価し、利益を還元していきたいという思いが強いです。

——社員さんを大切に、常に事業の未来を見据えて歩んでおられて、経営者としての才覚を感じますよ。

いえいえ。私も以前から「経営は才能」だと考えていますが、私自身にその才能はないと思っています。ただ、才能がないからこそ、人は新たなことに挑戦するものだと思うんです。何がビジネスチャンスかはやってみなければ分からない。だからこそ私は挑戦することを大切にしていますし、「やる気、元気、挑戦する勇氣」を経営理念に掲げています。

——挑戦なくして進化はないですね。今後が楽しみです。どのような展望をお持ちですか。

経営者として現状に満足することなく、ポジティブ思考で高みを目指し、社員たちの生活をしっかりと守っていききたいと思います。

——これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。

（取材／2026年4月）

COLUMN

顧客を支える制御盤のプロフェッショナル

制御盤設計・製造や盤改造を通じて、顧客の制御盤に関する幅広い悩みに応えている『オーケー電機』。制御盤と一口に言っても用途は幅広く、同社では製鉄所や鉄工所、フィルム関係、印刷工場、製紙工場、造船所関係の制御盤を数多く手掛けており、国内だけでなく、海外での盤改造にも対応している。

また、同社では30年以上の実績とノウハウを活かして、大手にない機動力で納期に柔軟に対応している他、製造コストの効率化によって製作費用の削減に貢献。製作後のフォローまで丁寧に対応するなど、クライアント企業を力強く支えている。「対応力のある制御盤製造会社を探している」「納期の折り合いがつかない」など制御盤に関してのお困り事があれば、まずは同社に相談してみてもいいだろうかと。



after the interview

「経営者としての才能に関する小金澤社長のお話は、聞く点が多く面白かったです。ご自身は『経営の才能はない』とおっしゃっていましたが、責任感が強く、周囲にしっかりと目を配り、自分の軸を持つ社長はとても経営者に向いていらっしゃると思いましたよ。これからも応援しています！」 野村 将希・談